

推薦・AO入試の基礎&保護者の心得

推薦入試・AO入試という言葉はよく聞けれど、いったいどんな入試方式なのかよくわからないという保護者の方も多いのではないだろうか？ そこで、推薦入試・AO入試とは一般入試とどう違うのか、どんな特徴があるのか、選ぶ際にはどんなことに注意すればいいのかを取材しました。お子さんと進路について話し合う時に、参考にしてみてください。

受験スケジュールと推薦・AO入試の基礎知識

ひとことで、推薦入試・AO入試といっても、何がどう違うのでしょうか？
まずは、全体的な受験スケジュールの目安と基礎知識を押さえておきましょう。

推薦入試

「公募制」と「指定校制」の2種類がある

最近では、私立大の入学者の約50%が推薦入試・AO入試で入学。一方、国公立大では、一般入試がメインで、募集人員の割合で見ると約15%が推薦入試、約3%がAO入試です。国公立大、私立大で、割合の違いはありますが、一般入試と並ぶ受験方式として、推薦・AO入試は認知されてきているといえるでしょう。

推薦・AO入試の動きは、一般入試に比べて早いため、検討する場合は早めに情報収集を開始しましょう。

推薦入試には、大きく分けて「公募制推薦」と「指定校制推薦」の2種類があります。

「公募制」は、出願条件を満たしていれば、誰でも出願できる方式で、出願条件として、評定平均値の基準を設

けているケースが多いのが特徴。学校長による推薦のほか、学校長推薦不要の自己推薦もあります。また、競技成績で出願するスポーツ推薦などもあり、多様化しています。

「指定校制推薦」は、大学が出願を許可した高校からのみ出願できる方式で、推薦枠数が限られ、評定平均値基準がある場合がほとんどです。

「公募制」は、国公立大は基本的に専願で、私立大は専願も併願可もあり様々です。また、私立大の「指定校制」

●国公立大の場合

は専願とする大学が多い状況です。

国公立大の推薦入試は原則公募制推薦で、センター試験を「課す方式」と「課さない方式」の2種類があります。国公立大の推薦の募集人員は多くなく、一つの高校からの応募人数が制限されている場合もあります。書類審査、面接、小論文での選考が主流ですが、評定平均値「4.0以上」が条件というところも多く、志望理由書、小



取材・文／菅家真理枝
イラスト／竹永絵里
監修(P14～P16)：河合塾

● 推薦入試・AO入試 スケジュールの目安

私立大			
	AO入試	公募制 推薦入試	指定校制 推薦入試
5月			
6月	エントリー・面談等↓		
7月			
8月	出願↓選考↓		
9月			校内選考↓
10月	合格発表↓		
11月		出願↓選考↓ 合格発表	出願↓選考↓ 合格発表
12月			
1月	大学によっては、 通年で募集している ケースもあります。		
2月			
3月			

国公立大			
AO入試		推薦入試	
センター試験課す	センター試験課さない	センター試験課す	センター試験課さない
</			

論文の内容などかなり高いレベルが求められます。センター試験を課す方式の場合は、センター試験の勉強も並行する必要があります。

● 私立大の場合

私立大の場合、公募制と指定校制を併用している大学が多いのが特徴。公募制の場合、出願条件は、難関私立大では高い評定平均値を課すケース

スもありますが、大学によって基準が異なるため、気になる大学については早めに確認しておきましょう。また、推薦の種類も様々で、高校での成績のほか、部活動の成績、生徒会活動、資格など、

*上の表は例年の傾向を示したものです。入試スケジュールは各大学・学部によって異なりますので、詳細は各大学のホームページ、募集要項等を確認してください。

AO入試

多種多様な選考方式があり
時間をかけて選考するケースも

AOとはアドミッションズ・オフィス
の略称。日本では、1990年代から
導入が始まりました。大学が掲げる
アドミッション・ポリシー（入学者の受
け入れ方針）に合う学生を選考する
ことを主眼にした入試方式で、学力テ

大学によって推薦の材料になるものが
いろいろ用意されている場合もありま
す。選考方法は、書類審査、面接、小論
文が中心ですが、基礎学力テスト、適
性検査などを組み合わせて行われる
場合もあります。

指定校制の場合、出願条件は、評定
平均値基準のほか、出席日数や選択
科目などが条件になる場合もありま
す。進め方は高校によって様々ですが、
一般的な例としては、7月頃各大学の
推薦枠や基準を公開し、志願者を募
集。9月頃に校内選考会議で推薦者
を選抜します。学校長推薦後の大学
側の選考は、書類選考や面接などがメ
インで、合格率は高めになるのが特徴
です。どんな大学から推薦枠が来てい
るかは、高校によって違うので、早めに
高校で確認しましょう。



ストだけでは測れない能力、大学・学部学科への適性、意欲、特技などから、多面的に評価するシステムです。

評定平均値など成績の基準を設けないケースが多く、面接をはじめ、模擬授業参加など、時間をかけて丁寧な選考が行われることもあります。どの高校からも出願できますが、専願者や第一希望者を条件とすることが多い傾向にあります。

AO入試の名称や選考方法は非常にバリエーションが多く、各大学、学部学科によっても多種多様です。書類審査と面接や小論文で行うオーソドックスなものだけでなく、その他のパターンとして、書類審査に加えて、課題についてのプレゼンテーションをしたり、テー

マに沿ってグループ討議を課したり、また、実際に大学の講義や実験に参加してレポートを提出する体験型のAO入試などもあり様々です。国公立大の場合は、推薦入試同様、センター試験を課す方式と課さない方式があります。

準備に、時間やエネルギーがかかる場合もある

一般的に、AO入試では、志望理由書、自己推薦書、活動報告書、課題レポートなど提出物が多い傾向にあり、これらが面接時の資料にもなるので、念入りに準備することが必要です。準備には時間もエネルギーもかかることを考慮に入れておきましょう。

AO入試は、自分が何をその大学で学びたいかを真剣に考え、それを表現することが軸になる入試方式です。その大学の求める学生像(アドミッション・ポリシー)や大学の学びの特色などをしっかり確認し、自分に合っているかを考えておくことも大事です。

出願は、8月くらいから始まる傾向にあります。私立大の場合は、夏休みのオープンキャンパスに事前面談や体験授業を行う大学や、年間を通じて複数回受ける機会を設けている大学もあります。スケジュールや入試スタイルは様々なので、早めに確認をしましょう。

専門家からのアドバイス

推薦・AO入試は、特に、志望理由、学習意欲が問われます

昨年末、2020年度から現在のセンター試験に代わる新たなテスト導入をはじめとした、今後の大学入試の在り方が発表されました。その影響で入試傾向が変わるのではないかと心配する向きもありますが、今の高校3年生の受験には大きな影響はありませんので、基本的には昨年度と同様であると思っています。推薦・AO入試についても、個別には大学・学部で変更はあるかもしれませんが、全体的には大きな変化はないでしょう。

推薦・AO入試を受ける上で、私が一番大切だと思うのは、お子さん自身が将来に対するしっかりとした考えを持っているかということです。なぜなら、「志望理由」

や「学習意欲」などを深く問われるからです。高3のなるべく早い時期に、お子さんの考えや意思を確認しましょう。

例えば、国公立大や難関私立大のAO入試は、倍率も高い上に、試験で問われる内容も広く深いものになりますので、志望理由書など提出物の準備も含め、相当のエネルギーを必要とします。時間的にも、一般入試のための学習時間を割くことになるので、かなりの覚悟が必要です。「将来の目標」や「その大学への志望理由」が明確でないと、リスクが大きいと言えるでしょう。

また、一般入試、推薦・AO入試に限らず、大学入試で大切なのは、お子さんの

「主体性」です。大学受験を経験している保護者の方が多いからこそその現象だと思えますが、保護者が前面に出過ぎて、子どものやる気を損なったり、意思疎通がうまくいなくなるケースは頻繁にあります。

お子さんと受験の話をするときは、「聞く」立場に徹することが肝心です。自分の考えが尊重されているとわかれば、お子さんも心を開きやすくなるでしょう。



学校法人 河合塾
現役生教務部
部長
服部周憲氏

ポイント2



ひとことで、推薦・AO入試といっても、国公立大や難関私立大などでは、長文の志望理由や深い内容の課題レポートや小論文を課す場合もあります。自分で物事を調べたり、自分なりの考えを組み立てたりする必要があり、「一般入試と負けず劣らずの苦労が

あるでしょう。一方で、出願さえすればほとんどが合格できてしまうAO入試もありますが、そうした選考の仕方は大学の特徴を表し、入学後の学業にも関係するので、しっかり見極めましょう。

「一概には言えませんが、自分が『入りたい』大学ではなく、妥協してラクして『入れる』大学に入ったら、周りにも同じようにラクをしてきた学生が多いと思います。そういう大学の授業はどんなレベルになるのか、お子さんが勉強に打ち込める環境なのかどうか、考えてみてほしいと思います」(秋本先生)

ポイント1



「早く決まるから」という理由だけで、推薦・AO入試を選ぶのは、本末転倒です

推薦・AO入試は、一般入試よりも合否が早く決まって安心というイメージを持っているお子さんや保護者の方も多いのですが、そういう理由だけで、推薦・AO入試を選ぶことに、秋本先生は警鐘を鳴らします。

「大事なのは早く進路を決めることではなく、子どもの10年後を考えること。社会の中であらゆる変化に対応し仕事をしていくためには、努力し頑張った経験が大きな力になります。その意味でも、2月まで懸命に勉強すれば子どもは必ず伸びるのに、その可能性を捨てて、推薦・AO入試で入れ

るところに安易に決めるのはお勧めできません。入りたい大学に挑戦する一つの機会として、推薦・AO入試を受けるのはよいと思いますが、万が一ダメな時にも最後まで志望校を変えず、一般入試に挑戦する気持ちを持つて臨むことが大切です」(秋本先生)

推薦・AO入試を考える時の5つのポイント

推薦・AO入試を検討する際には、どんなことに気をつけなければならないのでしょうか？
子どもの将来を見据えた上で、保護者が考慮すべきことは何か、進路指導の先生にアドバイスをいただきました。



東京都立芦花高等学校
キャリアガイダンス部
主幹教諭
秋本嘉一先生

推薦・AO入試による進学実績が多数を占める芦花高校で、進路指導を担当。その長短に詳しい。進路指導の基本姿勢は「応援すること」

自己推薦入試で合格



私立大
社会科学部
M・Oさん

自分の「軸」が大事

受験には、推薦・AO入試と一般入試の準備を並行して進めるスタイルで臨みました。私が受けた自己推薦入試は、1次で志望理由書、活動報告書などを含む書類審査、2次で面接と小論文でした。

一番大変だったのは、志望理由書です。私のやりたいことは、「まちづくり」でしたが、過去の経験を振り返りつつ、専門書なども読み、自分の価値観を掘り下げ、それに自分が取り組む理由を考えていきました。より深く考えるために、塾の先生や地元の大人の人たちに約30人に志望理由書へのアドバイスをもらいましたが、自分自身でここは譲れないという部分がないと、アドバイスを受けても揺らいでしまい方向性が定まりません。その自分の軸を見つけるのが大変でした。

実は、ほかにも行きたい大学があり、推薦・AO入試を受けたのですが、そこは不合格。不合格通知を受け取りながら、次の受験の準備や一般入試の勉強を続けた9月〜10月が最も辛い時期でした。振り返ると、志望理由書に取り組むことで、自分の行きたい方向や学びたいことを、早めに考えることができたのはよかったと思います。

ポイント5



ポイント4



ポイント3



推薦・AO入試では志望理由が肝心です。

そのためには、自分が本当にやりたいことを掘り下げること

推薦・AO入試では、なぜ、その大学に入りたいか、何を学びたいか、という自分の考えをしっかり持ち、それを志望理由書や面接で伝えることが求められます。

「大学案内で見たような表面的な志

望理由では意味がありません。『自分のやりたいことはこれだ』『その理由はこれだ』と迷わずに言える志望理由を自分で持っていてほしい。自分なりの志望理由が明確でしっかりしていれば、面接でどんな質問をされても答え

られるはずです」(秋本先生)
自分が本当にやりたいことは何か、突き詰めて考えるのは簡単ではありません。「社会人に話を聞いたり、やりたいことに挑戦してみるのでもいい」と先生は提案します。

**大学や入試方式について、よく調べて検討することが大事。
情報収集で協力するなど、保護者のサポートも必要です**

受験をするのは、あくまでも本人ですが、ある程度は保護者も一緒に情報収集するなど、サポートも必要と秋本先生は言います。

「受験の一番の相談相手は親御さんです。『私はわからないから自分で決

めなさい』と突き放したりせず、『一緒に調べてみよう』『一緒に学校を見に行こうか』と声をかけてほしいです。例えば、AO入試のメリット・デメリットを子どもの将来から考えることが必要ですし、何をしにそこに行くのかを

客観的に確認することはとても大事なことです。一般に比べてAO入試入学者の退学率が高い学校も少なくないことも知っておいてください。そのことについてもお子さんとぜひ話し合ってください」(秋本先生)

**毎日の何気ない声かけで応援しましょう。
合格しても、生活態度が乱れないように**

お子さんのやりたいことや志望大学が明確になり、受験体制に入ったらモチベーションが下がらないように応援するのみです。

「栄養のあるご飯を作ってあげて、『頑張ってるね』『ずっと応援しているよ』と何気ない励ましの言葉をかけて

ほしいと思います」(秋本先生)

また、推薦・AO入試の可否は年内に出ることが多いですが、早く合格が決まると生活態度が乱れがちです。大学入学までに基礎学力を下げないためにも、授業には気を抜かないように伝えましょう。



AO入試で合格



私立大
現代ビジネス学科
A・Sさん

やり遂げた達成感が自信に

高校で受けた授業を通して、人前で話すことや戦略を考えることが好きになったので、AO入試にしようと思いました。

親の勧めで、夏は他大学の英文科のAO入試を受けましたが、不合格。急ぎよ、もともと第一志望だった大学のAO入試を受けることに。

選考は、志望理由書と課題レポートを提出後、面接でした。志望理由書はA4判5枚で、志望理由、大学でやりたいこと、興味のある時事についてなど9項目。私は、伝えたいことがたくさんあって書き切れず、言いたいことが伝わる内容になっていくかとても不安でした。20〜30回くらいは書き直したと思います。面接は得意なので、「いっそ会って話したい!」という気持ちでした。

課題レポートはA4判で6枚で、街の活性化戦略を考えるというテーマでした。街の問題点を商店街に聞きに行ったりして、自分なりにプランを考えるのに、苦労しました。AO入試でめだつたら、一般入試でも受ける決めていましたが、無事合格。これだけの課題をやり遂げた達成感が自信になり、大学入学後も能動的に動こうという気持ちが生まりました。

聞いてみました！

保護者の感想&アドバイス

推薦・AO入試は、出願時期も早いので、部活や学校の授業もこなしながら、様々な準備をしなくてはなりません。
推薦・AO入試を経験した保護者は、どんなサポートをし、どんな気持ちで見守っていたのか、聞いてみました。

AO

やりたいことを
確認できた //

出願課題が、「この大学で勉強したいこと」だったので、入学後のテーマや将来やりたいことが本人の中で確認できてよかったです。就職試験や職業に就いてから先にも役立つと思います。

公募

子どもの思いを
信じてあげる //

推薦・AO入試は強い志望の気持ちを持たねばなりません。親が、その子の気持ちを理解してあげて、応援してあげることが大事だと思います。

指定

落ちた場合のことが
心配だった //

目標にしていた評定が取れたので、指定校推薦に期待する気持ちが膨らんでしまい、一般入試の勉強をまったくしなくなった時はどうなることかと、内心ヒヤヒヤものでした。

公募

生活面も
意識してフォロー //

周りで推薦入試を受けるのは1人だけで、大変だったと思います。モチベーションが落ちないように、精神的なフォローをしようと思い、衣食住や睡眠時間など生活面をサポートするようにしました。

AO

面接、資料集めなど
できるだけ協力 //

提出物がとても多かったので、プラン出し、資料探し、論文の添削、面接の練習など、できる限りの協力をしました。

AO

親子ともに
精神的に大変だった //

論文などの書類を提出する出願期間がインターハイと重なっていました。睡眠を確保しつつ体調を整えることも含め、親子とも精神的にも大変でした。

AO

書類は
一緒にチェックを //

書類などを本人に任せていましたが、一緒に早めにチェックすべきだったと思います。意外に高校側に書いてもらう書類も必要でしたので、しっかり確認したほうが良いと思います。

公募

情報収集が
大変だった //

筆記テストの過去問がなくて困りましたが、本人は部活で手いっぱいだったので、私が学校や塾に向いて情報収集しました。子ども任せにしていたら、うまくいかなかったと思います。

指定

長所を考えるのに
協力した //

面接の練習をしたときに、自分の長所を一緒に考えてほしいと言われたので協力しました。普段の様子を見ていて、感じていたことを言ってあげるとイメージが湧いたようでした。

公募…公募制推薦入試、指定…指定校制推薦入試、AO…AO入試

AO入試で合格



国立大
情報工学科
K・Kさん

高校時代の実績をプレゼン

高校では理数系専門学科に在籍。情報系の分野でプログラミングの勉強や課題研究に打ち込みました。AO入試のことを考え始めたのは、1年の夏頃。情報系のスキルは、AO入試で評価されやすいのではと考えました。当初は私立大希望でしたが、先生から今の国立大のAO入試のことを聞き、受けてみることに。選考は、1次が書類審査で、2次は、1次で提出した情報系の活動実績のレポートに関するプレゼンテーションと面接、基礎テストでした。私がプレゼンしたのは、高校時代に、自分を中心になって企画開発した「SNS」についてです。プレゼンテーションでは、SNSのオリジナルティや方法論などをパワーポイント15枚程度とデモンストレーション画面を使って説明しました。準備には約1カ月かかりましたが、高校時代に発表会で発表する機会があったので、その資料も活用。発表自体にも慣れていたため、苦労はありませんでした。

一番大変だったのは、約1年半を費やしたSNSの開発です。AO入試対策は、一朝一夕にできるものではなく、いかに高校時代に結果を残すかだと思います。